

インフルエンザワクチン、Hib ワクチン

2009.10.02

9月は函館市内近郊各所で新型と思われるインフルエンザの流行で、学校閉鎖や学級閉鎖が相次ぎました。教育委員会と各学校長の賢明な判断で早期に閉鎖していただいたため、小規模な流行で今のところは収まっているようです。ただ、だんだんと流行の年齢が低くなっているため、今後も警戒が必要です。

今年のインフルエンザワクチンは従来の季節型と新型の2種類があります。従来の季節型のインフルエンザワクチンは新型インフルエンザワクチンの製造のため、昨年の7から8割程度しか供給されません。医療機関ではすでに季節型のインフルエンザワクチンの予約が終了しているところもあります。接種を希望される方は早めに予約をされた方がいいと思います。

新型インフルエンザに対するワクチンは、優先的に接種する対象はほぼ決まり、11月は妊婦と持病のある人、12月からは1歳から小学校低学年のこども、1月からは小学校高学年、中学生などが対象となります。値段は、1回目が3600円、2回目が2550円で減免措置のある方もありますので、市町村の窓口で相談してください。新型インフルエンザのワクチンを接種しても、季節型インフルエンザには効き目がありませんので、どちらかをすればよいということではありません。

昨年12月から始まったインフルエンザ菌b型（通称ヒブワクチン）は、多くの小児科医療機関で接種が広まり、先行して接種していた医療機関でも供給が絞られてしまい、ほとんどの医院で3ないし4ヶ月待ちという状況が続いています。乳児にとっては罹ると、20人にひとり死亡し、4人にひとり障害が残るというとても重い病気のワクチンですので、多くの赤ちゃんに打って欲しいと考えています。残念ながら任意接種で必要な4回の接種を行うと3万円程度かかりますが、赤ちゃんの健康のためにぜひご検討ください。早くから接種を開始するためには、お産のあと時間をおかずに予約されることが一番と思います。